

## 【実践報告】

# 教育実習Ⅳ（中・高）の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 岡 利 道  
教授 笹 原 豊 造  
教授 石 原 義 文  
准教授 猪 川 優 子

## 1 はじめに

今年度も、予定していたコロナウィルス感染症の影響で、広島大学附属中・高等学校および広島大学附属東雲中学校における研究大会参加は中止せざるを得なかった。その代替措置として、本大学附属高校での授業観察、広島大学附属中・高等学校、広島大学附属東雲中学校の授業実践をビデオ視聴してもらった。なお、その他として、国語科が授業記録・授業研究等についての指導、英語科が基礎的指導技術に関する集中ワークショップを行った。

## 2 実習の概要

### （1）国語科

活動項目	活動内容
広島文教大学附属高校 2年生 11月10日(水) (学校教育の体験活動)	授業観察 国語総合古典 石川雅意先生 国語総合現代文 光石千夏先生 現代文 末吉博一先生 古典 鹿嶋舞先生 授業についての意見交換会 二分科会
3年生 11月17日	授業観察 国語総合古典 鹿嶋舞先生 現代文B 光石千夏先生 現代文B 井上泰先生 国語古典 末吉博一先生 授業についての研究協議会 二分科会
広島大学附属中・高等学校	教科主題：国語科における「探す」ための「学び」(3)～「国語科」的『探究』とは～ 新学習指導要領が示す「深い学び」を「探す」ための「学び」、『探究』と捉えての授業実践提案 ビデオによる授業観察 中3 「なぜ漢字を学ぶのか」 西原利典先生 高2 「花山天皇の出家」(『大鏡』) 三根直美先生 オンライン協議会 大学にて実践事例について検討

ここだけは2年生の実習

広島大学東雲中学校	授業の実践事例の提案を録画視聴 子ども達の「根っこ」を育てる文学の授業、物語の読みを深める授業づくりを考えるということをテーマに 小学校 吉岡大泰先生 「くじらぐも」 中学校 岡本恵里香先生 「扇の的」 オンライン協議会 大学にて実践事例について検討
定時の学修	観察実習の心得について 授業記録と授業研究について ～教育実習学習記録について、授業研究とは～ 教材開発について ～NHK高校講座「ベーシック国語」を例に～

## (2) 英語科

活動項目	活動内容
広島文教大学附属高校 11月10日 (国語科に同じ)	授業観察 英語表現Ⅰ 横山洸貴先生 コミュニケーション英語Ⅰ 住山嘉孝先生 授業についての意見交換会
11月17日	授業観察 コミュニケーション英語Ⅲ 紙屋翔一先生 Bunkyo English シャノン・マーシャル先生 授業についての意見交換会
広島大学附属中・高等学校	ビデオによる授業観察 中3 英語 久松 功周先生 「『 』を活用した言語活動」 高1 コミュニケーション英語Ⅰ 高濱 良有先生 「Readers Theaterの手法を用いた言語活動」 中学3年では、即興のやりとりなど、対話を題材とした実践を取り入れた授業を観察した。高校1年では、テキストの行間の推論を通じて、実際に行われたと思われる発言や、やり取りを豊かに表現できる言語活動の実践を目指した授業を観察した。授業視聴後、批評会を行なった。
広島大学東雲中学校	授業の実践事例の提案を録画視聴 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて思考・判断・表現する授業の実践事例報告。 小学校英語 榎原朱梨先生 「相手意識を大切にしたい言語活動の展開」 中学校 水川航生先生 「アウトプットの質を高める言語活動の展開」 視聴後、実践事例についてオンラインでの協議会に参加した。大学で実践事例について討議を行なった。
指導技術ワークショップ 1月24日	1. Classroom English 英語で授業を行うために必要な知識・技能を修得することを目的とする。 2. 音声指導の基礎と音声指導の実際 英語の音声の特徴(リズム、弱化、短縮など)を理解し、指導に活用する技術を修得する。 3. 発問の仕方 授業の従業な構成要素である発問とは何かを考える。生徒に主体的で深い学びを促す発問に必要な技術を修得する。 4. Small Talk & Oral Introduction 音声への関心を高めるために有効な指導技術の中で、Small TalkとOral Introductionについての理解と指導技術を修得する。

### 3 成果と課題

今年度より、本学の附属高等学校での教育実習が取り入れられるようになったことは大きな前進であった。学生へのアンケートでは、自己評価を4段階（4：とても熱心だった，3：まあまあ熱心だった，2：あまり熱心でなかった，1：熱心でなかった）でしてもらったところ，次のような結果であった。なお，有効回答人数は26名である。

	4	3	2	1	未回答
オリエンテーション	5	20	0	1	0
授業観察	25	1	0	0	0
掃除への参加	10	13	3	0	0
ショートホームルーム見学	8	14	3	1	0
授業研究協議会	24	0	0	0	2
本日のプログラム全体	20	5	0	0	1

学生たちは概ね熱心に取り組むことができていると思われる。掃除への参加については，事前にもう少し詳しく趣旨を説明しておくべきことが示唆された。自由記述欄を見ると，全体として学習指導案（略案でもよい）があればよかった，校舎の見取り図がほしかったとの声が比較的多かった。また，事前連絡をもっと早めにしてほしかったとの声もあり，次年度に生かしていきたい。

附属高等学校の先生方にもアンケートにご協力いただくことができた（有効回答人数は5名）。自身もよい刺激となった，勉強になった，熱心に取り組んでもらいありがたかった，と肯定的に受け止めていただいたことに感謝申し上げたい。先生の書かれた内容から，授業研究協議会（分科会）の会場によっては，やや質問が少なかったところもあったことがわかった。次年度の改善に向け，さらに声かけをしていきたい。

以上，附属高等学校における取組を振り返ることにより，「成果と課題」に代えさせていただくことにする。